

タイトル	平成 29 年度 一般入試 (後期日程) 医学部 (保健学科) 小論文 II
評価の ポイント	<p>全体：理系の基礎知識を元に、科学的に考察できているかを評価した。</p> <p>問題 1：感染症ポリオの根絶に向けた WHO をはじめとする世界的動向に関する文章の正確な読解力を評価した。評価に当たっては、ポリオの「常在国」から外した理由、ポリオウイルスの感染経路、ポリオ根絶のための重要課題、ポリオウイルス観戦と麻痺の関連性について、正確に把握できるかを重視した。</p> <p>問題 2：世界の死亡原因に関して、総合的な思考力、問題解決能力等を評価した。評価に当たっては、図から内容を読み取り、計算して数値化できるか、時間の推移による変化を把握し、死亡率の推移を的確に理解できるか、図から予測し、自分の考えを適切に表現できるかを重視した。</p> <p>問題 3：乳児の哺乳行動と母親の行動の関連性に関する問題文と図の内容を客観的に理解し、論理的な問題解決能力を評価した。評価に当たっては、図を正確に理解し、その内容を論理的に説明できるか、文章と図の内容に基づいて自分の考えを適切に表現できるかを重視した。</p>

氏名	
----	--

受験番号	
------	--

医学部保健学科小論文Ⅱ解答用紙 1

(後期日程)

A

野生ウイルス株ポリオウイルスに自然感染する患者が一年間確認されなかったから。
--

--

B

口から体内に入り腸で増殖し、感染者の便から別の人の口へ入り、人から人へ感染する。
--

--

C

1 子供へのワクチン接種
2 公衆衛生の改善

--

D

腸で増殖したウイルスが脊髄の一部に侵入するため。

--

小計

氏名	
----	--

受験番号	
------	--

医学部保健学科小論文Ⅱ解答用紙 2

(後期日程)

E

式	$(3.1+1.5+1.5) / (7.4+6.7+3.1+3.1+1.6+1.5+1.5+1.5+1.3+1.1)$
答	約21%

--

F

<p>2000年から2012年で、虚血性心疾患は100万人以上、脳卒中は50万人以上死亡者が増え、糖尿病も増加している。下気道感染症は減少したが依然として死亡者数は多い。HIV/エイズは170万人から150万人へとわずかに減少している。下痢性疾患は、2000年より減少したが、2012年に150万人の死亡者がおり依然として高い。結核は、この12年間で減少したが90万人以上の死亡者がある。妊産婦死亡も依然として高い。全体として、生活習慣病が増加し、感染症は減少傾向にある。</p>

--

G

<p>虚血性心疾患、脳卒中、肺がん、糖尿病が増加すると考えられる。対策としては、運動、健診などを心掛け、食生活、飲酒、喫煙などの生活習慣改善に努める。また、生活習慣病に関する情報提供、教育の徹底、医療の発展が望まれる。</p>

--

小計

氏名	
----	--

受験番号	
------	--

医学部保健学科小論文Ⅱ解答用紙 3

(後期日程)

H

2週齢と8週齢では傾向が異なる。2週齢では揺さぶりがあ る場合よりも揺さぶりが ない場合の方が、時間 間隔が広くばらつくの に対して、8週齢では 揺さぶりの有無に関わ らず2秒から10秒の間 に同様に分布する。ま た、2週齢より8週齢 の方が、時間間隔が短 い。

--

I

2週齢と8週齢では揺さぶりの有無と赤ちゃんの発 声数の関係は異なる。2週齢では、揺さぶりの有無に 関わらず発声することは 少ないが、8週齢で揺 さぶりがないと発声数 が増加する。
--

--

J

発声までの時間間隔と揺さぶってもらったまでの時間 間隔は相関しており、 さらに、発声までの時 間間隔の方が、揺さぶ ってもらったまでの時間 間隔よりも長い。

--

K

赤ちゃんの発達 は、母子間の交流、 相互作用によって影 響され、コミュニケーション が重要である。お母 さんは、赤ちゃんの行 動・反応を観察し、刺 激をすぐに加えずに、 赤ちゃんの発声による 要求を待つことが必 要である。その際、 母子ともに相互の行 動を予期、期待し、 相互の行動に応じて 双方とも行動すると、 発達が支援できる。 また、母子ともに個 別性が高いことも重 視すべきであり、機 械的に対応するの ではなく、その子の 行動と母親の行動の タイミングが良いこ とを重視した方が良 い。
--

--

小計